

# 雪崩分科会レター

No. 5 (1989年9月)

日本雪氷学会雪崩分科会



砲撃による雪崩コントロール。カナダのロジャース峠にて  
(小林俊一氏提供)

富山大学理学部

川田邦夫気付

# 雪崩分科会例会のご案内

本年の例会は下記のように行います。  
会員・非会員を問わず入場自由。お誘い合わせご参加ください。

## 記

日時： 平成元年10月28日(土) 午後6時30分 - 8時30分

会場： 弘前文化センター (弘前市下白銀町19-4、Tel.0172-33-6571)

弘前駅からバス「文化センター前」120円、Taxi約540円)

講演： 建設省の集落を対象とした雪崩対策事業について

\*事業概要：熊谷 晃 氏 (山形県土木部砂防課技術補佐)

\*\*調査・総合的対策：寺田秀樹氏 (建設省土木研究所新潟支所主任研究員)  
雪崩と浸食について

小野寺弘道氏 (農林水産省森林総合研究所東北支所研究室長)

なお、日本雪氷学会全国大会の雪崩関係の研究発表(口頭)が同日午後3時頃から分科会と同じ会場で行なわれる予定ですので、併せてご来聴下さい。

※講演予定者の方から要旨をいただきました。

## 講演要旨

建設省の集落を対象とした雪崩対策事業について (項目)

\*雪崩対策事業の概要 (熊谷 晃)

事業創設の経緯

最近の集落における雪崩災害実態

雪崩危険箇所及び対策事業の概要

雪崩対策工の事例 (防止工事の考え方、山形県の事例)

\*\*雪崩対策に関する調査概要 (寺田秀樹)

調査課題

被害予測手法に関する調査 (実態調査)

雪崩防護施設の設計・施工に関する調査 (低温室実験、構内実験)

調査事例 (柵口、減勢工、シミュレーション)

\*\*\*総合的な雪崩対策 (寺田秀樹)

雪崩と

積雪  
有の浸  
役割は  
-の量  
林地  
雪地带  
らかに  
方が多  
今回  
らかに

『雪

昨年  
てきま  
渡され  
になる見  
辞典の  
など)、  
直接雪崩  
執筆につ  
ここで感  
のため連

\* \* \*

◎「黒部

1988年  
が今年2  
いただけ  
ります。  
送付も

## 雪崩と浸食について（小野寺弘道）

積雪の挙動を主な営力とする浸食現象は「雪食」と呼ばれ、多雪地帯の山地に特有の浸食現象として知られるようになってきた。雪食において雪崩の作用の果たす役割はきわめて大きく、わが国においては、一回の雪崩によって数千 $m^3$ のオーダーの量の土砂が浸食・運搬されたことが報告されている。

林地における雪崩の発生は、森林の取り扱い方と密接に関連しており、多雪・豪雪地帯の皆伐一斉造林地が雪食地に移行する初期過程の一端についてはこれまで明らかにされている。しかし、雪食地の拡大と回復過程についてはわからないことの方が多い。

今回は、雪崩のもつ作用の一側面である浸食作用にスポットをあて、これまで明らかにされてきたことがらについて報告する。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

## 『雪氷辞典』の編集経過について

——成田英器幹事

昨年2月以来、「雪氷辞典」の原案作成、項目の選定、そして執筆作業が行われてきました。現在、それらの作業が終り、出版予定社の古今書院に執筆原稿が受け渡されており、今後、10～11月にかけて校正を行い、出版は来年の1月末になる見込みです。

辞典の総項目は約1030、その他巻末図表として分類表（雪崩、雪結晶、積雪など）、物性表、最大積雪深や根雪期間の分布図などが掲載されます。項目の中で直接雪崩に関係するものは92項目となりました。雪崩分野の項目選定、それらの執筆については、当分科会のいろいろな方々から御協力をいただきましたことを、ここで感謝いたす次第です。また、担当者の手抜かりが多かったことと、長期不在のため連絡が行き届かなかったことをお詫びいたします。

\*\*\*\*\*

### ◎「黒部ホウ雪崩」のご送付について

1988年1～2月に黒部峡谷志合谷で計画実施された「ホウ雪崩実験観測」の報告書が今年2月に出されました。雪崩に関心のある皆様にお送りしてご意見、ご指導をいただければここに同封させていただきました。ご高覧頂ければ幸いに思っております。今後ともよろしくご指導の程お願い申し上げます。

送付もれや、重複等がございましたら深くお詫び致します。お知らせ下さい。

（黒部峡谷雪崩実験観測研究グループ）

## 寄稿

10カ月にわたるカナダでの研究を終えて、今春帰国された新潟大学の小林俊一さんから帰国のご挨拶を寄稿していただきました。ご多忙中のところをお願い、早くに原稿を頂いたにも関わらず、ニューズレターの発行が遅くなってしまったことをお詫び致します。また町田誠さんからは今年塩沢に完成した鈴木牧之顕彰記念の「雪の文化館」を紹介していただきました。どのような書式でもかまいませんので会員皆様の積極的な寄稿をお待ちしております。

### 帰国挨拶

小林 俊一

昭和63年6月1日から平成元年3月29日までの10カ月間、カナダのバンクーバにあるカナダ国立科学院・建設研究所・雪崩研究センターで過ごすことが出来た。ここにはピータ・シェラーとデビィー・マックランが居てロッキー山脈に近いロジャース峠で雪崩の衝撃力の研究を地道に続けている。ロジャース峠の近くのレベルストークの町にはポール・アンフォンとクリス・ワーリィの二人の技官が頑張っている。私はここで自然雪崩を捉えようと8mmのビデオカメラを設置して運を天に任せて待ち構えた。幸いにして、二人の技官の人の献身的協力の御陰で1月と4月に撮影に成功した。1月の煙型雪崩は北大の秋田谷方式による5秒間の駒撮りで雪崩の速度は50m/sであった。4月の撮影はクリスがジョフォンによってトリガーをかけてくれたので雪崩の全体の撮影に成功した。これからどのように料理しようかと目下思案中である。今年はカナダも雪が例年に比べて少なく、雪崩の発生も僅かであった中でよくもうまくいったものと喜んでいる。

その他、砲撃による雪崩制御の実演や雪崩防止設備を見学した。東部カナダをも旅する機会があり、サスカツーンでロン・ペルラーにも会ったが、彼は今は雪崩の研究が出来ずに寂しそうであった。シアトルにある西部雪崩予報センターをも訪問し、秋田谷先生の紹介により、美人のスー・ファガソン博士が親切に色々と教えてくれた。彼女はワシントン大学でラシャベル教授の最後のお弟子さんとのことである。センターはかの有名なノア（National Oceanic and Atmospheric Administration）の中にある。

滞在中、夏の期間が長かったのでカナダの素晴らしい自然と多くの研究者に巡り会えて楽しかった。期待していた英語会話の方はその割に上達しなかったのは日本の友人とも多く交際し日本語を話す機会も多かったせいかなと自分の能力不足を棚に上げて他人の精にしている。この紙面を借りて帰国の御挨拶といたします。（小林 俊一）

## 鈴木牧之顕彰記念「雪の文化館」完成

町田 誠

「北越雪譜」の著者鈴木牧之は、明和 7年(1770年) 1月27日越後魚沼郡塩沢(現在の新潟県南魚沼郡塩沢町)に生まれた。幼名を弥太郎と云い、16才で元服し義三治と改め、俳号を牧之と号した。家業は縮み問屋であるが、幼い頃から学問・文芸の手習いに励み、諸国の文人・歌人・画家等幅広く友人と交わった。

雪に関する日本最古の文献「北越雪譜」は、発案から出版まで40年近くの年月を費やし、この書に生涯をかけた。その動機の一つに魚沼地方は、越後の国でも一番の豪雪地帯であり、又、江戸と佐渡とをつなぐ三国街道の往還に面した塩沢は、参勤交代の諸大名を始め、多くの文人・学者達が往来する文化交流地点でもあった。牧之はこの豪雪地帯に住んで、広くいろいろな人達と交わり、早くから雪国の宿命を強く感じていた。北越雪譜は、越後の民俗・習慣・伝説・産業等について詳述したものであるが、その中でも雪に関することは、特に詳細に述べてあり、現在の雪研究でも参考になる事が多く記載されている。

又、文化館の特徴は木材の美しさ、強さをアピールし、県産杉材を多用した克雪型大規模木造建築で、魚沼地方に多く見られる「せがいで造り」となっています。雪ばかりでなく建築家の人達も一見する価値は充分にあると思います。

文化館の内部は1Fは雪とくらしコーナー、鈴木牧之のコーナー等からなり、2Fには伝統産業の塩沢紬の織物産業等のコーナー及び雪国の生活道具等が陳列してあります。

### 展示品

- 夜職草(よなべぐさ)  
(新潟県指定文化財)
- 曲亭馬琴書簡集  
(新潟県指定文化財)
- 山東京山書簡集2冊  
(新潟県指定文化財)
- 周月庵発句集
- 北越雪譜(初判本)7冊
- 塩(冬)治判官一代記
- 周月庵うた女追善集
- 張交屏風国所性名帳
- 秘鑑
- 夜職草稿本
- 廣大寺跡
- 雅友発句集
- 越後短冊百人一首2冊
- 他邦短冊百人一首
- 諸国年鑑8冊
- 牧之交遊人名簿2冊
- 百首短冊帳(小屏風型)3冊
- 水世記録帳2冊
- 短冊
- 坂戸城絵図
- 塩沢村名所絵図
- 越後の図
- 樺太絵図
- 中華之図
- 世界地図
- 其の他の地図(2枚)
- 書簡集5巻(差物仕上)
- 書簡集(差物木表装)
- 孔雀(表彰状張込)
- 短冊張合せ
- 家大人肖像
- 遊女の図(詠) 2幅
- 関羽の像
- 父母の図
- 狂歌 歌合わせ
- 十返舎一九の狂歌
- 大田南畝書(屏風)
- 亀田鵬齊書(屏風)
- 六曲小屏風
- 張込六曲屏風
- 鏡台
- 衣桁
- 火浣紙
- 秋山記行(写本)
- 亀石の歌(馬琴書)
- 牧之画遊禽之図
- 囲碁之図
- 牧水画雲洞精舎長卷
- 牧山筆八十賀祝歌
- 青木牧水筆
- 山水画2幅
- 梅花図1幅
- 鈴木牧養筆
- 瀑布図
- 同書
- 同元且試筆
- 大田南畝書
- 村山哲齊画 清水崎
- 海雲書 大曲・屏風
- 絵馬
- 行燈
- 緒桶
- 短冊
- 山水の図

以上、簡単ですが「雪の文化館」の紹介をさせていただきましたが、多くの方々から見ていただきたいと思います。

交通は、上越新幹線越後湯沢駅より車で約20分位です。又、関越自動車道石打ICより車で約10分位、旧塩沢小学校跡地に今年完成しました。

